

## 教育研究業績書

令和5年5月10日

氏名 亀尾 聡美 印

## 教育上の能力に関する事項

事項	年月	概要
1 教育方法の実践例	平成31年4月～	コロナ禍でのオンラインでの授業にも対応するために、ICTを活用し、プリント、および課題を、学生がダウンロードできるようにした。資料映像などの動画を授業に取り入れている。オフィスアワー及びメールにて、学生からの相談を随時受け付けている。アクティブラーニングを取り入れた授業を行っている。
2 作成した教科書・教材	平成21年3月～令和5年5月	教科書：衛生・公衆衛生学（アイ・ケイコーポレーション） 社会・環境と健康の授業において、毎回、授業に関する事項を取りまとめた教材を作成し、授業において活用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価	平成30年 令和4年度	群馬大学における自己点検の評価結果 A判定 甲子園大学栄養学部での授業評価 学生の授業満足度はおおむね8割以上であった。 教職相互による評価は、おおむね良好であった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
5 その他		特記事項なし

## 職務上の実績に関する事項

事項	年月	概要
1 資格、免許	昭和59年3月	食品衛生管理者・食品衛生監視員任用資格（北海道大学農学部農芸化学科卒による）
2 学校現場等での実務経験	24年	東北大学大学院医学系研究科医科学専攻・社会医学講座・環境保健医学分野 助手・助教（平成11年4月～平成20年9月） 群馬大学大学院医学系研究科・公衆衛生学分野 助教（平成20年10月～平成31年3月） 宮城学院女子大学食品栄養学科非常勤講師（平成12年4月～平成20年9月） 高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科・理学療法学科非常勤講師（平成24年4月～平成31年3月） 甲子園大学栄養学部栄養学科教授（平成31年4月～現在）
3 実務の経験を有する者についての特記事項		特記事項なし
4 その他		特記事項なし

様式第4号 (教員個人に関する書類)

担当授業科目に関する研究業績等						
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	執筆ページ数 (総ページ数)	概要
公衆衛生学 社会・環境と健康Ⅰ 社会・環境と健康Ⅱ 社会・環境と健康Ⅲ	(著書) 1. 「毒性の科学分子・細胞から人間集団まで」	共	平成 26 年 2 月	東京大学出版会	7 ページ (200)	遺伝子・タンパク質などの生体分子レベルから得られた知見を、 <u>人間集団や社会</u> で起きる <u>環境汚染</u> などの問題解決へとつなげる「科学」としての <u>毒性学</u> を詳細に解説された参考書。  (執筆担当部分：第 1 章 <u>毒性学の基本概念</u> ： <u>毒性評価に関わる指標や基準策定の基本</u> 、pp. 13～19) 編者：熊谷 嘉人、姫野 誠一郎、渡辺 知保、著者： <u>亀尾聡美</u> 、神戸大朋、佐藤 洋他
公衆衛生学実習 環境と健康 特別演習 (国試対策演習：社会・環境と健康担当)	2. 衛生・公衆衛生学 2009	共	平成 21 年 3 月	アイ・ケイコーポレーション	20 ページ (245)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の <u>公衆衛生の概念、環境と健康、国際保健、保健行政、保健統計、疫学研究、疾病予防、主要疾患の疫学と予防、地域保健、社会保障制度、母子保健、学校保健、および産業保健</u> 等の広範囲に渡る総合的な教科書(執筆担当部分：第 11 章 <u>環境と健康</u> 、第 12 章 <u>産業保健</u> 、pp. 156～163、pp. 184～195) 編著者：山本玲子、著者：上原鳴夫、 <u>亀尾聡美</u> 、小松正子、金野吉光、関田康慶、高橋弘彦、千葉啓子、土井 豊、西郡光昭、吉田寿美子
	3. 衛生・公衆衛生学 2010	共	平成 22 年 3 月	アイ・ケイコーポレーション	20 ページ (232)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分：(執筆担当部分：第 11 章 <u>環境と健康</u> 、第 12 章 <u>産業保健</u> 、pp. 161～169、pp. 190～201) 編著者：山本玲子、著者：上原鳴夫、 <u>亀尾聡美</u> 、他
	4. 衛生・公衆衛生学 2011	共	平成 23 年 3 月	アイ・ケイコーポレーション	20 ページ (239)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分：第 11 章 <u>環境と健康</u> 、第 12 章 <u>産業保健</u> 、pp. 159～167、pp. 188～200)編著者：山本玲子、著者：上原鳴夫、 <u>亀尾聡美</u> 、他
	5. 衛生・公衆衛生学 2012	共	平成 24 年 3 月	アイ・ケイコーポレーション	20 ページ (230)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分：第 11 章 <u>環境と健康</u> 、第 12 章 <u>産業保健</u> 、pp. 159～167、pp. 188～200)、編著者：山本玲子、著者：上原鳴夫、 <u>亀尾聡美</u> 、他

様式第4号 (教員個人に関する書類)

6. 衛生・公衆衛生学 2013 -社会や環境のシステムと環境との関わり-	共	平成 25 年 3 月	アイ・ケイ コーポレ ーション	32 ペー ジ (278)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分: 第 14 章 <u>環境システムと健康 (環境保健)</u> 、第 15 章 <u>働く人々の健康 (産業保健)</u> 、pp. 207~214、pp. 230~240、pp. 252~264、編著者: 山本玲子、著者: 池上清子、 <u>亀尾聡美</u> 、他
7. 衛生・公衆衛生学 2014 -社会や環境のシステムと環境との関わり-	共	平成 26 年 3 月	アイ・ケイ コーポレ ーション	33 ペー ジ (275)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書((執筆担当部分: 第 14 章 <u>環境システムと健康 (環境保健)</u> 、第 15 章 <u>働く人々の健康 (産業保健)</u> 、pp. 204~211、pp. 225~236、pp. 249~261)、編著者: 山本玲子、著者: 池上清子、伊藤恒久、 <u>亀尾聡美</u> 、他
8. 衛生・公衆衛生学 2015 -社会や環境のシステムと環境との関わり-	共	平成 27 年 3 月	アイ・ケイ コーポレ ーション	32 ペー ジ (285)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分: 第 14 章 <u>環境システムと健康 (環境保健)</u> 、第 15 章 <u>働く人々の健康 (産業保健)</u> 、pp. 212~219、pp. 236~245、pp. 258~271)、編著者: 山本玲子、著者: 池上清子、伊藤恒久、 <u>亀尾聡美</u> 、他
9. 衛生・公衆衛生学 2016 -社会や環境のシステムと環境との関わり-	共	平成 28 年 3 月	アイ・ケイ コーポレ ーション	32 ペー ジ (306)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分: 第 14 章 <u>環境システムと健康 (環境保健)</u> 、第 15 章 <u>働く人々の健康 (産業保健)</u> 、pp. 228~235、pp. 254~264、pp. 278~291)、編著者: 山本玲子、著者: 池上清子、伊藤恒久、 <u>亀尾聡美</u> 、他
10. 衛生・公衆衛生学 2017 -社会や環境のシステムと環境との関わり-	共	平成 29 年 3 月	アイ・ケイ コーポレ ーション	38 ペー ジ (298)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分: 第 15 章 <u>環境保健-環境システムと健康</u> について、pp. 223~240、pp. 247~266)、編著者: 山本玲子、著者: 池上清子、伊藤恒久、 <u>亀尾聡美</u> 、他
11. 衛生・公衆衛生学 2018	共	平成 30 年 3 月	アイ・ケイ コーポレ ーション	35 ペー ジ (298)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分: 第 15 章 <u>環境保健-環境システムと健康</u> について、pp. 222~239、pp. 247~262、pp. 266) 編著者: 山本玲子、著者: 池上清子、伊藤恒久、 <u>亀尾聡美</u> 、他
12. 衛生・公衆衛生学 2019	共	平成 31 年 3 月	アイ・ケイ コーポレ ーション	33 ペー ジ (299)	衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分: 第 15 章 <u>環境保健-環境</u>

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>13. 衛生・公衆衛生学 2020</p>	共	令和2年3月	アイ・ケイコーポレーション	33 ページ (298)	<p><u>システムと健康</u>について、pp. 223～238、pp. 248～263、pp. 267)                  編著者：山本玲子、著者：池上清子、伊藤恒久、<u>亀尾聡美</u>、他</p> <p>衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分：第15章 <u>環境保健-環境システムと健康</u>について、pp. 221～235、pp. 246～263)                  編著者：山本玲子、著者：池上清子、伊藤恒久、<u>亀尾聡美</u>、他</p>
	<p>14. 衛生・公衆衛生学 2021</p>	共	令和3年3月	アイ・ケイコーポレーション	35 ページ (299)	<p>衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分：第15章 <u>環境保健-環境システムと健康</u>について、pp. 221～237、pp. 246～263)                  編著者：山本玲子、著者：池上清子、伊藤恒久、<u>亀尾聡美</u>、他</p>
	<p>15. 衛生・公衆衛生学 2022</p>	共	令和4年3月	アイ・ケイコーポレーション	35 ページ (299)	<p>衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分：第15章 <u>環境保健-環境システムと健康</u>について、pp. 222～238、pp. 247～264)                  編著者：山本玲子、著者：池上清子、伊藤恒久、<u>亀尾聡美</u>、他</p>
	<p>16. 衛生・公衆衛生学 2023</p>	共	令和5年3月	アイ・ケイコーポレーション	35 ページ (299)	<p>衛生学、公衆衛生学に関する管理栄養士養成系、保健学系の学生対象の総合的な教科書(執筆担当部分：第15章 <u>環境保健-環境システムと健康</u>について、pp. 222～238、pp. 247～264)                  編著者：山本玲子、著者：池上清子、伊藤恒久、<u>亀尾聡美</u>、他</p>
	<p>(学術論文等)                  1.                  Association between selenium nutritional status and metabolic risk factors in men with visceral obesity.</p>	共	平成25年4月	J Trace Elem Med Biol. 2013 Apr;27(2): 112-6.	抽出不可 (5 ページ)	<p>内臓肥満の男性における<u>セレンの栄養状態</u>と<u>メタボリックシンドロームのリスク要因</u>との間の可能な相関関係を調べることを目的とした研究である。肥満グループでは、セレンはHDLおよびFABP4と正の相関がありました。メタボリックシンドロームグループでは、セレンはMCP-1と負の相関を示した。これらの結果は、セレンの栄養状態とリスク要因との関連性が、肥満男性の特定のグループに限定されていることを示した。(執筆担当部分：セレン測定およびリスク要因との考察、「共同研究により抽出不可</p>

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>2. メンタルヘルス不調・疲労と微量元素          ー 夜間勤務における疲労と微量元素栄養との関連 -</p>	共	令和1年11月	食と医療 11, 2, 3, p72-77 (講談社 MOOK)	6 (6ページ)	<p>可」)          Mutakin, Meiliana A, Wijaya A, Kobayashi K, Yamazaki C, <u>Kameo S</u>, Nakazawa M, Koyama H</p> <p><u>メンタルヘルス不調・疲労</u>は、近年、様々な世代、特に青少年や勤労世代にかけて、大きな社会問題となっている。<u>微量元素、特に亜鉛</u>にフォーカスし、先ず、うつ病・メンタルヘルス不調との関連をレビューし、および、病院職員を対象に行った疲労調査と微量元素の関連を紹介した。公衆衛生学的な観点から、亜鉛欠乏を改善することによる疲労・メンタルヘルス不調を原因とする<u>うつ病の予防</u>、さらに<u>食生活の改善</u>の提言を行った。(執筆担当部分:全ページについて筆頭執筆者として、主導的に執筆を行った。)  <u>亀尾 聡美、原田 暢善、星野 泰栄、小山 洋</u></p>
	<p>3. Recent advances in clinical studies of selenium supplementation in radiotherapy.</p>	共	令和2年12月	J Trace Elem Med Biol. 2020 Dec;62:126653	抽出不可 (8ページ)	<p>放射線療法は、がん患者にとって最も重要で一般的な治療法の1つであり、ガイドラインを確立するために、放射線療法における<u>セレン補充の利点とリスク</u>を調査しレビューを行った。セレンの補給により、患者のセレンの栄養状態が改善され、放射線療法の副作用が軽減されることが示された。<u>放射線療法の前に患者のセレンの状態を判断し、適切な補充を行うという放射線療法におけるセレン補充の新しいガイドラインを提案する。</u>(執筆担当部分:セレン補充の考察、「共同研究により抽出不可」)          Handa E, Puspitasari IM, Abdulah R, Yamazaki C, <u>Kameo S</u>, Nakano T, Koyama H.</p>
	<p>4. How Worries about Interpersonal Relationships, Academic Performance, Family Support, and Classmate Social Capital Influence Suicidal Ideation among Adolescents in Japan.</p>	共	令和4年1月	Tohoku J Exp Med. 2022 Jan;256(1):73-84.	抽出不可 (11ページ)	<p>思春期の自殺の危険因子と保護因子を調査するために、日本の中学校で横断的なアンケート調査を実施し、自殺念慮の有病率は10.5%であること、自殺念慮のリスクは、1) 学校での人間関係、2) 家庭での人間関係、3) 学業成績についての心配によって増加したが、家族からの社会的支援と信頼関係によって減少しることが明らかになった。<u>思春期の自殺の予防のためのソーシャルキャピタル強化の重要性</u>が示された。(執筆担当部分:アンケートの要因解析結果の考察、「共同研究により抽出不可」)          Nakano M, Yamazaki C, Teshirogi H, Kubo H, Ogawa Y, <u>Kameo S</u>, Inoue K, Koyama H.</p>
	<p>5. The iodide</p>					

様式第4号 (教員個人に関する書類)

	<p>transporter Slc26a7 impacts thyroid function more strongly than Slc26a4 in mice.</p> <p>6.</p> <p>Biosorption of different gadolinium (Gd) complexes from water by Eichhornia crassipes (water hyacinth).</p> <p>(教育実践記録等)</p>	<p>共</p> <p>共</p>	<p>令和4年7月</p> <p>令和4年9月</p>	<p>Sci Rep. 2022;12(1) :11259</p> <p>Int J Phytoreme diation 2022;24, p .893-901</p>	<p>抽出不可 (4 ペー ジ)</p> <p>抽出不可 (9 ペー ジ)</p>	<p>遺伝子欠損マウスを用いたヨウ素輸送体と 甲状腺機能の維持についての基礎的研究で ある。<u>通常餌および低ヨウ素餌</u>において、 Slc26a7<sup>-/-</sup> マウスに発現する遺伝子 (の 数は、Slc26a4<sup>-/-</sup> マウスよりも有意に高い ことが明らかになった。これらは、SLC26A7 が SLC26A4 よりも<u>ヨウ化物輸送と甲状腺 機能の維持に強く関与している</u>ことを示し ている。(執筆担当部分:ヨウ素測定方法と マウス尿中ヨウ素濃度の結果、「共同研究に より抽出不可」)</p> <p>Yamaguchi N, Suzuki A, Yoshida A, Tanaka T, Aoyama K, Oishi H, Hara Y, Ogi T, Amano I, <u>Kameo S</u>, Koibuchi N, Shibata Y, Ugawa S, Mizuno H, Saitoh S</p> <p><u>重金属</u>を除去する能力がある植物であるホ テイアオイ (ウォーター ヒヤシンス) が、 ガドリニウム (Gd) を収着する可能性を明 らかにする基礎的研究である。<u>ウォーター ヒヤシンスの根は水中の塩化ガドリニウム を9割以上吸収するが、Gd ベースの造影 剤(GBCA) を吸収しなかった。</u>環境中に放出 された GBCA は、環境要因によって分解さ れ、海洋生態系に悪影響を及ぼす可能性が 示唆された。</p> <p>(pp. 893-901、執筆担当部分: ICP-MS によ るガドリニウム測定方法とガドリニウム測 定の結果、「共同研究により抽出不可」)</p> <p>Kartamihardja AAP, Kumasaka S, Hilfi L, <u>Kameo S</u>, Koyama H, Tsushima Y.</p> <p>特記事項無し</p>
<p>公衆衛生学 社会・環境と健 康 I~III 公衆衛生学実 習 環境と健康 特別演習 (国試対策演 習:社会・環境 と健康担当)</p>	<p>(著書)</p> <p>1. 「毒性の科 学 分子・細胞 から人間集団 まで」</p> <p>2. 衛生・公衆 衛生学 2009~ 2023</p>	<p>共</p> <p>共</p>	<p>平成26年2月</p> <p>平成21年3月 ~令和5年3 月</p>	<p>東京大学 出版会</p> <p>アイ・ケイ コーポレ ーション</p>	<p>6ページ (200)</p>	<p>(再掲のため、略)</p> <p>(再掲のため、略)</p>